

- 8) 高橋新次郎、小原博司、〃ゴム乳首の乳歯穿に及ぼす影響に
ついて〃口腔病学会誌9巻3号10月
- 10) 詫摩武人、松見富士夫〃小児科領域に於ける内外診療界の展
望〃医事新報一四四七号

保育者の精神衛生(一)

— 保育者の悩みについての調査 —

- 11) 〃小児歯科における指吸引癖に対する歯科医と心理学との
協力的な見解〃齒界展望9巻1号
- 12) 児童研究法(児童心理叢書1) (P.207) 金子書房
- 13) 木田文夫、〃体質と神経質〃 (P.83及P.403) 金子書房

頌栄短期大学 西 本 脩

〇目的及び問題

近頃児童の精神衛生の問題と関連して教師の精神衛生ないし精神的健康と云うことが、教育上の重要な問題として盛に論議されている。これらは主として小学校以上の学校教育について論ぜられているようであるが、幼児教育の場合について考えて見ると、この「教師の精神衛生」の問題がより重要な意義を持つていっているように思われる。

幼児教育に於ては保育者と幼児との関係ほど重要なものはない。幼児のためにより環境を与え、最も望ましい保育を行うためには

色々大切な条件が挙げられるが、それらの条件の中で、最も重要なものは、よい保育者を得ることである。たとえ、その幼稚園保育所がさほどよい自然的環境に恵まれていなくても、或はその設備が充分に整っていないなくても、よい保育者を得ることが出来るならば、これらの欠点を補つて余りあるほど、決定的な影響を与えるものである。

従つてよい保育を行うためには、よい保育者を得ることが、何よりも先ず必要である。よい保育者であるためには、身体的に健康であることが望まれる。それと共に、否それにも増して必要なことは精神的に健康であることである。

幼児期は一般に、感受性、眞做性、被暗示性が強く、周囲の大人殊に両親や保育者の感情や性格態度等に支配され易い時期である。

従つて保育者が自覚するにせよ、しないにせよ、保育者のパーソナリティ（人格）は、よい意味につけ、悪い意味につけ、幼児の人格の発達に、強く影響するものである。

更に、この時期は「三つ児の魂百まで」と云われる如く、人間の人格の基礎が形成せられる時期であり、人の一生に於ける最も重要な時期なのである。それ故この時期に於て、両親や保育者から受けた人格的な影響は、その子供の一生を支配すると云つても過言ではないのである。

以上に述べた如く、保育者の人格が、印象を受け易い幼児の人格形成に直接強い影響を与えると云う事實、而も幼児期に受けた人格的影響が後々まで残ると云う事實は、教育的に見て極めて重要な意味を持つている。即ち幼児をして円満な調和のとれた健全な精神を持つた社会人とするためには、先ず保育者自身が健康な精神の持主でなければならぬと云うことである。従つて良い保育を行うためには、保育者が保育上必要な知識や技術に通じていることよりも先ず、情緒的に均衡のとれた、調和のある人格をそなえていることが必要なのである。

保育者とその精神的健康を保持するためには、その基本的要求が障害を受けることなく充足されていなければならない。保育者も又一個の人間的存在であり、普通の人と同じように、家庭生活や社会生活を営む社会的人間である。従つて人間としての基本的要求の充足を求める。若し何らかの制約を受けてこの要求が満足を得られず

所謂要求阻止の状態に陥ると、その解決を求めて、種々の問題に直面し、人間としての煩悶や問題に悩むものである。而してこの様な場合には、精神的に不健康な状態になり易いのである。しかもそれは、幼児に直接影響することを考えると、保育者の精神的健康の保持、増進をはかることが極めて重要であることを知るのである。

本研究に於ては、保育者の精神衛生に関する諸問題の中から、保育者の精神的不健康をひき起す原因について究明する。

○方法

以上に述べた目的のために、私は一九三八年及び一九四〇年にアメリカのN、E、A（国民教育協会）の研究員によつてなされた調査、及び我が国の堀内敏夫氏によつてなされた研究（何れも小学校以上の学校教師を研究対象としている）を参考として、保育者の要求阻止状態の原因を明らかにせんとした。そのために左記の様な質問紙を複製配布し、回答を求めた。

問1、現在あなたが悩んだり、不満に思つていたり、或は困つて居る問題がありましたら次の項目にあてはまる欄に出来るだけくわしく具体的に書いて下さい。たくさんある場合には各項目について重要なものから順に三つお書き下さい。

- 1、自分自身に関するもの
- 2、家族や家庭に関するもの
- 3、幼稚園、保育所等に関するもの
- 4、幼児に関するもの
- 5、保育に関するもの

6、社会に関するもの

7、その他に関するもの

問2、尚毎日のお仕事の中から滲み出た御感想や、今後「よりよい生活」をする為にかくありたいと云う御希望等をありのま、お書き下されば幸甚に存じます。

調査期間 昭和二十七年三月—四月

調査の対象 大阪市内及び神戸市内全公立幼稚園の教諭、助教諭

計三五〇名に調査票を配布した。

○結果の概要

現在の調査票回収状況は第一表の通りであり、調査票配布数に対する回収率は一九・七％である。それ故、未だ統計的な処理をなすまでには至っていないが、大体の傾向を見ることは出来るように思はれる。次にその概略を記すことにする。

(1)、第三表は無記入者の数を示す。(質問紙の「その他」の欄に記入したものは、全部その内容によつて、他の六つの欄に算入した)これによると「幼児に関する悩み」「保育に関する悩み」「家庭に関する悩み」についての無記入者が多いのに対して、「自己」「幼稚園」に関する悩みの無記入者は少い。

(2)、次に第二表によつて悩み、不満の記入頻度及び一人当りの平均記入数を見ると、「幼稚園に関する悩み、不満」が全頻数二六二の二五・六％を占めて、最も多く、次に「自己関係」の二四・八％が他の項目に比して著しく多くなつてゐる。

次にこれらの悩み、不満の内容について見ることとする。

○幼稚園

保育者の悩みの中で最も多いのは、幼稚園に関する悩みである。その中頻数の多いものから挙げると次の通りである。

- | | |
|-------------------|----|
| 1、事務的仕事の過重 | 32 |
| 2、施設、教材の不備 | 14 |
| 3、幼児数の過多 | 6 |
| 4、職員間の融和、協力が無い | 5 |
| 5、運営上の封建制、非民主性 | 5 |
| 6、教材を思う様に使えない | 2 |
| 7、P、T、Aが封建的である | 1 |
| 8、園長が非民主的、非人格者である | 1 |
| 9、衛生設備がない | 1 |
| 合計 | 67 |

この結果によると事務的仕事の多過ぎることが、保育者の悩みの第一の原因となる。このことは、私がこの研究と共に行った保育者の実態調査にも現れている。(帰宅時間が午後六時七時になるものが多いと云うこと)次に遊具、保育室、運動場、遊戯室等の足らないこと及び之らと関連して幼児の数が多過ぎることが悩みの種となつてゐるようである。実際私達が幼稚園を見て、一組に五十人近くの幼児が一人の先生の元にいる情景や二、三百人の幼児が狭い運動場にひしめき合つてゐるのを見るのである。

○自分自身に関する悩み、不満

幼稚園に関する悩み、不満の二五・六%に次いで多いのは自己に関する悩み、不満の二四・八%である。今その内容をあげると次の通りである。

- 1、自信、能力、知識、教養がない
- 2、研究、勉強の時間がない
- 3、健康でない
- 4、結婚問題
- 5、人生観に関する問題
- 6、お稽古の時間がない
- 7、自己の性格に関して
- 8、交友の問題

合計

65

これらの一つ一つの項目についてはいち／＼説明を要しないと思うので略する。

○ 社会に関する悩み、不満

- 1、児童のためにより施設、環境がない
- 2、幼児教育に対する理解がない
- 3、幼児に対する理解がない
- 4、保育者に対する理解、関心が不足
- 5、保育者の待遇がわるい
- 6、両親の子供に対する理解不足
- 7、両親の保育に対する理解不足
- 8、幼稚園でつけられた良い習慣が家庭で破壊される

- 9、幼稚園に対する関心が不足
- 10、小遣銭が多過ぎる
- 11、遅刻する子供が多い

合計

40

○ 保育に関する悩み、不満

- 1、幼児のしつけ、取扱い方
- 2、行事が多過ぎる
- 3、保育カリキュラムの問題
- 4、通園
- 5、参観者
- 6、保育中に父兄が話し込む
- 7、他処の子供が邪魔をする
- 8、付添の問題

合計

33

○ 幼児に関する悩み、不満

- 1、困る子供の取扱い方
- 2、生活の習慣
- 3、保健問題
- 4、言語礼儀の指導

合計

29

○ 家族、家庭に関する悩み、不満

1 4 9 15

- 1、教職に対して理解がない
- 2、家庭経済の問題
- 3、住宅問題
- 4、家事が出来ない
- 5、生活の非能率、不合理
- 6、家族の扶養

合計 28

○結 語

以上保育者が理実を抱えている悩みについて、その原因を概略述べたのであるが、前述の如く、回答数が少いため、その詳細なる数値及び結論は今後にもたなければならぬ。今迄の結果から次の様なことが言えよう。

- 1、保育以外の事務的な仕事が多過ぎること、及び之と関連して、研究や修養のための時間がないことを多くの保育者は悩んでいる
- 2、自分自身の教養の足りなさ、保育に対する自信のないことを悩みとしている。又困る子供の取当い方及び一般的なしつけの仕方等についても困っている様である。保育者に対する現職教育の重要性を思わせる。

3、幼稚園の施設、遊具等が充分にないこと及び絵具、色紙、画用紙等思う様に自由に使えないこと、又幼児の数が多過ぎること等何れも財政的な問題と関連を持つているが、これらの点について少しづつでも改善して行く事によつて保育者の悩みを軽減しなければならぬ。保育者は少しでもよい保育を子供達のためにしよ

うと思ひ、努力しているのであるが、現状のまゝではそれが不可能なのである。

4、保育者は社会環境が幼児に適していないこと（具体的にはパチンコその他のかけごとの流行、戦争玩具、流行歌、青少年の不良化等）幼児に適した遊び場の少ないこと（児童遊園はあつても多く小学校以上の年長児によつて占められ、幼児は安全に自由に遊ぶことが難しい等）一般社会の幼児教育に対する認識がうすいこと等にも多くの悩みを持つている様である。

5、保育者の家庭の人々（家族、同居者等）の理解が乏しいこと、又事務的仕事の過重等のため帰宅の時間が遅くなり家事のきりまわしが困難であることにも悩んでいる。

これらの要求阻止状態の原因を除き、或は軽減するためには、保育者自身が努力すべきことは言う迄もないが、家庭、幼稚園、社会が協力して少しづつ、でもよくなる様に努めなければならない。かくして保育者が悩みを持つことなく、いつも明朗、健全な心を持つて、保育の道にいそしめる様にすることは我々すべての者の責任であり、かくすることによつて幼児達の幸福がもたらされるのである。

（本研究は私立幼稚園教諭、保育所保育についてのもなされているのであるが、今回は中間報告として、公立幼稚園教諭のみを対象とした。私立幼稚園、保育所については追て発表する。最後にこの研究は大阪市立桃園幼稚園長岡田しげの先生、神戸市立榊幼稚園長山崎ときの先生の御好意と御協力によつてなされたものであることを記し、両先生に深く感謝申し上げます。又資料を提供し、御回答を

お寄せ下さった各幼稚園教諭諸姉にも厚く御礼申し上げます。諸姉の御健闘を祈る。

第一表 報告者人員

年 齢	人 数
19才以下	3
20—24才	22
25—29才	20
30—34才	7
35—39才	6
40—44才	6
45才以上	3
不 詳	2
合 計	69

第三表 無記入者数

報告者総数	69人	
自己関係	26	37.7%
家庭関係	42	60.9
幼稚園関係	30	43.5
幼児関係	46	66.7
保育関係	43	62.3
社会関係	37	53.6
計	224	

第二表 記入頻数

報告者総数	69人		1人当りの記入数
自己関係	65	24.8%	0.94
家庭関係	28	10.7	0.41
幼稚園関係	67	25.6	0.97
幼児関係	29	11.1	0.42
保育関係	33	12.6	0.48
社会関係	40	15.2	0.58
計	262		3.79

(%は報告者総数に対するもの)